

東京 北海道 びらとり会 便り



「北海道びらとり会便り」第12号では、2023年度総会の開催案内、元平取町教育委員会学芸員森岡健治さんからの特別寄稿「アオトラ石は平取の宝物」、小平出身の林 一廣さんご執筆の故郷の思い出「故郷平取町を数年振りに訪ねて」、昨年、都内で開催された平取町の物産展の報告などを掲載しました。

「北海道びらとり会」は、関東圏在住者で平取町出身者及び平取町にゆかりのある方の交流と親睦を図るとともに平取町の振興発展に寄与することを目的に設立された会で、北海道に平取町という町が存在することをわかってもらおうという思いを込めて「北海道びらとり会」と命名しました。

撮影場所：二風谷ダムのたんぼぼ(5月上旬)
写真提供：びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」

発行：北海道びらとり会
編集：廿日岩 久典 泉 典子
発行日：2023年4月1日

本年度(2023年度)の総会は6月17日(土)

2023年度北海道びらとり会総会は、下記の要領で開催します。多くの皆様のご参加をお願いします。

日時：6月17日(土)
総会・懇親会：14:00～17:00
場所：銀座POP ROAD(ポップロード)
中央区銀座1-6-16
銀座1616ビル地下1階
TEL:03-3562-8088

東京メトロ有楽町線 銀座1丁目駅5番出口徒歩1分、
丸の内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 徒歩7分、
銀座線 京橋駅2番出口徒歩4分
JR山手線有楽町駅 徒歩6分

会費：5,500円 内訳：懇親会費：5,000円 会費：500円

会場は、2018年に総会・懇親会を開催した場所です。2020、2021、2022年と3年連続、当会の最大の活動である総会は開催できませんでした。会員の皆様の中に、北海道びらとり会は、このまま自然消滅するのではないかと危惧された方がおられたとお聞きました。この3年間、6回(年2回)便りの発行を継続して、ほぼそと活動を続けてきましたが、face to faceの活動には勝てません。多くの方にご参加を頂き、リアルでの旧交を温めてください。今回も平取町の皆様も参加されますが、2020年6月に平取町長に就任された遠藤町長が初めて出席されます。遠藤町長とは初対面です。町の現状や取り組みなど最新の情報をお聞きすることができますので、ご期待ください。

元平取町教育委員会学芸員森岡 健治さんからの特別寄稿文

元平取町教育委員会学芸員森岡 健治さんから「アオトラ石は平取の宝物」と題して特別寄稿いただきました。森岡さんは現在、国立アイヌ民族博物館研究学芸部教育普及室長として勤務されています。白老のウポポイ内にある博物館です。森岡さんは役場を定年退職後1年間、広報公聴係として再任用され勤務していました。その時、北海道びらとり会との窓口を担当され大変お世話になった方です。便り11

号のびらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」の記事をお読みになって、メールを頂きました。森岡さんご自身の研究テーマがアオトラ石とのことでしたので、アオトラ石について特別寄稿をお願いしました。非常に興味深い内容です。アオトラ石は、平取町にしかない宝物ということに驚きました。アオトラ石を話題に平取町をもっともっとPRしましょう。5000年前の我がふるさと平取を想像してお読みください。

2022年に開催された平取町の物産展

・ツーリズム EXPO ジャパン 2022

2022年9月22～25日(22、23日は商談会のため一般の方入場不可)に東京ビックサイトで開催されました。世界各国、日本全国の観光地が集結する、年に一度の世界級の旅の祭典で、4年ぶりに東京で開催されたようです。主催者のHPによれば北海道ブースは道内40団体(自治体&観光施設)が参加していたようで、平取町は日高エリアのブースでした。多くの人が立ち寄り、平取町のパンフレットを手元に色々と質問を投げかけていました。これを機会に、平取町への観光客が増えることを願ってやみません。

ツーリズム EXPO ジャパン 2022は、9月に開催されたため、10月1日発行の北海道びらとり会便り11号に開催案内を掲載することができませんでした。ご了承ください。



・なまらいいっしょ北海道フェア

2022年11月5日、6日の二日間、三軒茶屋ふれあい広場で開催されました。道内16の地域が出店、平取町からは、振内町の「ジャンケンボン」さんが「びらとり和牛」のハンバーグと二風谷にある「ムーブ」さんが「びらとりハム」を持って出店しました。多くの来場者があり、平取町から持参した品物はすべて完売したそうです。来年も開催が予定されているそうですので、会員の皆様、ぜひお出かけください。今回は、北海道びらとり会便り11号でお知らせしたようにプレゼントをいただいてきました。平取町商工会の皆様、ありがとうございました。



ふるさと納税のお願い

私達は平取町への応援の一環として、平取町への「ふるさと納税」を推進しています。平取町のホームページ「暮らし・手続」にアクセスするか、又は下記にお問い合わせください。皆様のご協力をお願いします。

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
平取町役場 観光商工課 観光商工係
TEL:01457-3-7703
FAX:01457-2-2277
E-mail:b.furusato@town.biratori.hokkaido.jp



皆様の投稿をお待ちしております

会員の皆様からの投稿をお待ちしています。便りを会員相互の情報交換の場としてもご利用下さい。内容は自由、字数、締め切り期日は問いません。宛先(廿日岩 久典)は以下のとおりです。

郵送の場合：〒343-0046 越谷市弥栄町4-1-287
FAXの場合：048-978-8728
メールの場合：h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

編集後記

2019年以来的の総会開催です。皆様多数のご参加をお願いします。リアルでの再会を楽しみにしています。

森岡さんにはご多忙の所、特別寄稿頂きました。私は学芸員の方が役場にいても、アイヌ文化について研究しているものと勝手に思っていました。町内の遺跡の発掘などに組み込まれていたことは思いもよりませんでした。平取の新しい一面を見たような気がします。アオトラ石を含め町内の遺跡発掘についてもっと広く知ってもらう必要があると思います。執筆をお願いしました。

林さんには、昨年10月に二風谷にある「ゆから温泉」で平取中学校の同級会があり、役場を訪問したいとお話を頂き、役場の担当の方をご紹介した際に執筆をお願いしました。同級会の様子や町の風景、様子など目に浮かびます。私も2019年にコタン村を見学しました。びらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」から、二風谷ダムの写真を提供頂きました。ありがとうございました。(廿日岩)

訂正して、お詫びします

北海道びらとり会便り11号(2022年10月10日発行)のびらとり自然ガイドクラブ「アオトラ」の記事の中の写真の説明文に誤りがありました。正しくは以下の通りです。
訂正して、お詫びします。
(誤) 糠平川上流の、豊糠のアオトラの沢
(正) 仁世宇のニセウガロー



会 員 募 集

新規会員の勧誘をお願いします。
以下にご連絡をお願いします。

・平取町役場 観光商工課 広報広聴係

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
TEL：01457-3-7703(直通)
FAX：01457-2-2277
koho.kocho@town.biratori.lg.jp

・北海道びらとり会会長 廿日岩 久典

〒343-0046 埼玉県越谷市弥栄町4-1-287
TEL/FAX：048-976-8728
携帯 090-3246-4858
h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

・北海道びらとり会事務局長 須藤 孝夫

〒344-0038 埼玉県春日部市大沼4-43-2-306
TEL/FAX：048-735-6329
携帯 090-8344-3938
sudo2689@lagoon.ocn.ne.jp

アオトラ石は平取の宝物！

森岡健治（元 平取町教育委員会学芸員）

「北海道びらとり会便り」第 11 号がきっかけで、廿日岩会長より平取町内の遺跡から発見される“アオトラ石”について、執筆の依頼を受けましたのでご紹介します。

日高の秀峰幌尻岳（2,052m）から流れ出る額平川の支流には、国内でも希少な岩石であるアオトラ石の露頭が見られます。アオトラ石とは緑色岩の一種ですが、「青みがかった縞状の模様」を持つことから、地元では古くから“アオトラ石”と呼ばれています。



アオトラ観賞石

そのアオトラ石、平取町民ならいつでも、どこでも見かけることができる普通の石と思われるがちですが、実は平取町内にしかない貴重な宝物なのです。

アオトラ石が産出される露頭を観察すると枕状溶岩・塊状溶岩や層状火砕岩、ピクライトとよばれる海底火山の岩種で構成されていることがわかります。つまり、まだ北海道の形や日高山脈が形成される以前に海底火山の噴出物で構成されたものが、日高山脈の造山運動（熱変成や圧力）の影響を受けて、標高 350 ～ 400 m の露頭で見られるというわけです。余談ですが、平取町はアンモナイトも多く採取されることで有名です。つまり、太古の昔、このあたりは海であったと言えます。

さて、その露頭から転石となって採取された大きな岩石は、庭石として利用されたりしています。また、沙流川に合流するまでの間小さな転石となって採取されたものは、次第に硬い淡緑色層と柔らかい濃緑色層の凹凸が顕著となり、観賞石として重宝されたりします。こうした庭石や観賞石は、平取町一帯では昭和 30 年代末頃から親しまれ、昭和 40 年（1965）1 月には『二風谷銘石保存会』が誕生します。そして、次第に沙流川観賞石として本州方面まで販路を広め、昭和 47 年（1972 年）には 8 割ほどが津軽海峡を越えるまでになり、現在でもこの庭石・観賞石を生業とした人々が販路拡大に努め、「沙流川銘石」を守っています。

ところが、近年、考古学の世界では、このアオトラ石を縄文時代の“石斧”として使用していたことがわかってきました。石斧に使用される石の材料は、これまでそれぞれの地域で比較的身近な場所から採取していたと考えられていました。しかし、こうしたもののなかに相当数のアオトラ石が含まれていたのです。アオトラ石は見た目の美しさのほか、適度な粘りと研磨のしやすさに特徴があります。そのため、擦り切ったり、磨製石斧の製作に適しており、折れにくいという特徴もあります。

アオトラ石は日高山脈の造山運動が生んだ変成岩の一種といえますが、旭川の神居古潭峡谷からえりも町の襟裳岬にかけて圧力と温度の違いによって異なる岩石ができたため、そのなかでアオトラ石は適度な硬さと粘りがあり、加工しやすく丈夫だったといえます。そのため、今から 5000 年ほど前の縄文時代前期には重要な生活用具である石斧となって、木の伐採や土を掘る道具として使われるようになったのでしょう。



アオトラ原石から石斧まで



アオトラ石の産出地である平取町は、町内のどこの遺跡を発掘してもアオトラ石が出土します。その中でも比較的転石の採取地点に近いと思われる芽生地区の「町有牧野第 11 牧区遺跡」では、アオトラ石の素材や製作途中の半完成品が多数出土しました。つまり、ここの遺跡では、石斧の完成品よりも完成直前の半完成品を作り出す工場の役割があったのかもしれませんが。こうした半完成品が、次第に北海道内各地や東北地方にまで持ち出され、刃部を磨いて石斧として使用されているようですが、遠く離れた地域ほど貴重品として扱われたことでしょう。

現在、このアオトラ石で作られた石斧は、北海道内ばかりか、青森市の三内丸山遺跡、八戸市内の各遺跡、岩手県、秋田県、山形県など東北地方各地から数多く発見されています。また最近の調査では新潟県や福島県、栃木県、さらには神奈川県鎌倉市の遺跡などでも発見されています。

現在、平取町内には 127 か所の遺跡が発見されていますが、今から約 5000 年前の人々がアオトラ石の魅力を関東圏にまで広げてくれている様子は、まるで「北海道びらとり会」の皆さまがふるさと平取のことを語っていただいているのと重なって映ります。

平取の宝物としてのアオトラ石は、役場庁舎入口や町長室など、お客様の目の触れるところにも置かれ、今なお平取のために一役買ってくれています。是非、皆さまも我がふるさとを語るとき、平取の宝物アオトラ石の魅力についてもひと言添えていただければ幸いです。

故郷の思い出 故郷平取町を数年振りに訪ねて



林 一廣（小平）

我々昭和 39 年 3 月平取町中学校を卒業した埼玉県に住む 4 名（坂本、佐藤、原田、林）は 2022 年 10 月 16 ～ 18 日故郷平取町を訪ねた。皆んな数年振りの平取町への帰郷である。紫雲古津小の前を通り過ぎたあたりからあそこは誰の家だ、その家は誰がいたかなと、車内の中は興奮していた。そしていよいよ平取本町に入った。小学校も建て替え場所も移動、中学校は少し山に登ったところと仲間が説明、車中からは見えない。街並みは我々が通学していた砂利道の面影もなく全てが舗装道、商店街も綺麗に並んでいた。間もなく地元の鎮守義経神社を過ぎて沙流川を渡り小平を過ぎていよいよ宿泊先の二風谷だ。

二風谷温泉に到着すると同級生数人が迎えに玄関先にいた。皆んな懐かしい顔ばかりで名前を告げられても顔と名前が一致しないが話しているうちに数十年前の思い出が蘇って来た。宴会は久しぶりの再会で話題の中心は中学 3 年時の担任先生の話しが酒の肴で共通していた。何故か各々が時間を惜しむかの様に家族の話し

をすることなく、小中学時代の話でもちきりであった。二次会は早々に切り上げ多くは帰宅し宿泊したのは我々 4 名と数名であった。翌日は松原君（沙流川森林組合代表理事組合長）が我々の為に二風谷コタン村の案内役をしてくれた。このコタン村は我々が居た頃はなかったが、このコタン村は今や海外でも知れた観光名所である。たまたまコタン村でカメラを手にした外国人に会い、何処から来たのですかと尋ねたらイタリアローマから友人と来たと話していました。まさに外国人にも知られている名所ようだ。

また、平取町は開拓時代イギリス人が入植していたとの話を聞いたと記憶しているが、我々が通園していたジョン・バチラー幼稚園は改築されていた。英国人考古学者のニール・ゴートン・マンロー邸も外観が綺麗になっていたのも観光名所として整備したのだろう。

帰りに平取町役場に立ち寄り副町長の佐藤氏、観光商工課の杉山氏、堀氏を表敬訪問し昔の平取と今日の比較を話題に暫し歓談した。帰りがけには皆さんが玄関先まで送ってくれた。僅かの滞在であったが故郷は懐かしいものだ。



町内遺跡出土のアオトラ石製石斧（素材～完成品まで）